

たんぽぽだより

2023年 3月号



今年度も残り1か月となりました。5月にはコロナウイルスも普通の風邪と同じ扱いに変わるようですが、今回は感染が広がってしまい大変申し訳ありません。また、登園自粛のご協力ありがとうございます。

これが最後の自粛になると思います。来年度は徐々にコロナ前の状況に戻ると思います。地域の方々ともっと交流出来たらいいなと思います。

今月は1年間の思い出を振り返ってみましょう。

ゆり組はもちろんですが、もも組もつぼみ組も、お散歩や外遊びなどたくさん外で遊びました。

つぼみ組は入園当初にミルクだった子ども、離乳食を経て、今では右手にスプーン・フォークを持ちながら、左手を使って手づかみで食べたり（笑）。自分で食べる事を楽しんでいます。

また自分の思いを身振り手振りで表現し、月齢によって成長の幅がありますが、友だちのお茶を持ってきたり、バックを持ってきたりなどの、お手伝いをするなどいろいろな体験を通して大きく成長しました。時にはトラブルもありましたが、大好きな友達との友情も芽生え、笑いと感動の1年でした。

つぼみの時代は真っ白なすべて依存している状態からの出発です。そこから様々な経験を通して成長していく一番初めの大事な根っこ・基礎のまた基礎の時代です。人の一生の中で最もたくさんの事を吸収し、成長しているつぼみ世代の子ども達には、愛情いっぱい目をかけ、言葉をかけ、手をかけられることで、その後どんな人生を歩んでいくかが決まってくるといっても過言ではありません。

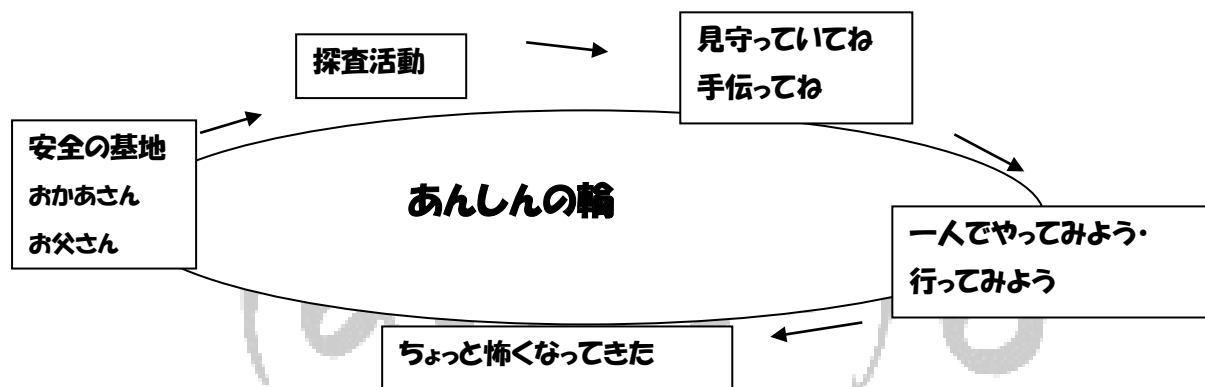
もも組は4月は不安定な足取りで園庭周辺までしか出かけられなかったのが、今ではしっかりと歩けるようになり、大好きなバスや電車を見に早岐駅まで行けるようになり、お散歩を楽しんでいます。友達や保育者の名前を呼び関わり、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようになりました。

この時期の「いやいや」や「自分で」「だっこして」は、成長にとって必要なことなんです。自分が周りに「受け入れられているか」を確認している時期なのです。十分に甘える事が必要なので、わがままと捉えず、しっかり話を聞いてください。ただし子どもの言うとおりにして、すべて叶えてあげる必要はありません。共感して受け入れるとは、子どもがどう感じて、どうしてほしいのかを①聞いて②その内容や思いを言葉で返してあげてから、③出来る出来ないを話して理由もちゃんと説明していく事です。それで一人の人として尊重されるのです。さらに言葉の獲得も出来ます。その場合、出来る出来ないの基準を

はっきりと決めておくことが大事です。

個性あふれるゆり組の子ども達。自分の思いを表情や言葉でいっぱい伝え、豊かな感性を発揮して、のびのびと1年間過ごす事が出来ました。これからも笑顔いっぱいに花が咲きますように！

ゆり組の時期は、『安心感の輪』の中で安全の基地⇒探索活動⇒見守っていてね、手伝ってね⇒一人でやってみよう・行ってみよう⇒ちょっと離れちゃったな⇒少し怖くなってきた⇒お母さんのところに戻ろう⇒安全の基地⇒探索活動⇒・・・と、この時期は安心と探索活動と自立心と恐怖心とがぐるぐる回っていく始まりの時期なのです。年齢が上がっていけば安心の輪が大きくなっていきますが、まだ3歳の時点では小さな輪です。『自分でしたい』と『自分で出来ない(甘えたい)』が交互にやってきます。



お母さんや、保育者が子どもにとっての安全基地・避難場所として甘えてきたときには安心できるような場所・抱きしめてくれる場所になっていると、また一人で出ていく事ができるようになるのです。そうやって安心の輪は大きくなっていくのです。それが自立の第一歩です。

新年度説明会 3月25日(土)

つぼみ組(0歳児) 10時～
もも組(1歳児) 11時～
ゆり組(2歳児) 13時～
令和5年度の新しい担任と話を
して頂きます。教材についてや、
注意事項など話があります。参加
をお願いします。

2月の苦情・ご提案について：特にありませんでした。

3がつの歌
ひなまつり はるがきた 思い出のアルバム
1年間歌って来た思い出の歌他

保育サロン
たんぽぽ

今月の目標： 一年の楽しかった思い出を振りかえり成長を分かち合う。

つぼみ組【0歳児】：季節の変化、春の自然を見つけながら、お散歩や戸外遊びを楽しむ。興味のあるものを見たり、触れたり、握ったり、なめたりして楽しむ。

もも組【1歳児】：自分でできる簡単な身の回りのこと(手洗い、排泄、衣服の着脱等)をすることで自信を持つ。春を感じながら、戸外遊びや散歩を十分に楽しむ。

ゆり組【2歳児】：春の気配を感じながら戸外へ出て、体を動かす遊びを楽しむ。クラスみんなで過ごす楽しさや安心感を味わう。

3月の保育内容

養護

つぼみ組：一人ひとりの成長を振り返り、現在の成長の様子をしっかり捉え、新しい環境へスムーズに移行出来るようにする(誘導ロープ、うがい等)。安心感を持って生活できるように個々に合わせた対応をしていく。自分の思い気持ちを受け止めてもらい触れ合うことで心地よく過ごす。

もも組：加湿や換気を十分に行い、快適に過ごせるようにする。体力がついてきているので、存分に体を動かして安全に遊べるようにする。子どもたちの自我の育ちを見守り、自分でやる気持ちを大切に、さりげなく援助していく。心も体も大きくなった喜びを保育者と共に感じ、進級への期待を持って過ごせるようにしていく。

ゆり組：気温や体調、活動に合わせて衣服の調節を行い、健康に過ごすように配慮する。春の自然を十分に体感できるよう、公園や原っぱへの散歩を取り入れる。基本的な生活習慣が身に付き、自分でできることの喜びを味わいながら生活出来るようにする。

教育

つぼみ組：排せつしたことを感じて、紙パンツをバックから取り出し、保育者に交換してもらう。色々な食材に興味を持ち、スプーン、フォークを使って自分で食べようとする。保育者に見守られながら安心して友だちと関わり、遊びを楽しむ。保育者や友だちとの関わりの中で簡単な言葉・言動を真似し、やり取りを楽しむ。絵本の「大きなかぶ」など、経験を結びつけイメージを広げる。楽しい手遊びや音楽に合わせて楽器遊びを楽しむ。

もも組：スプーンを下手(したて)持ちにして、こぼしながらも最後まで自分で食べようとする。帽子や靴下の着脱、片付けを自分でしようとする。尿意や便意を言葉や仕草で知らせたり、保育者に見守られながらトイレに座ってみようとしたりする。簡単なごっこ遊びを通して、友達や保育者と楽しさを共有する。行事や散歩を通して、冬から春への移り変わりを感じながら戸外で体を動かして遊ぶ。友達や保育者と一緒に季節の歌をうたったり、手遊び、リズムに合わせて体を動かして遊ぶ。

ゆり組：ひな祭りの由来を話しながら、ひなあられを食べてお祝いをすることを伝える。正しくスプーンを使い、反対の手はお皿に添えようとする。尿意を感じると自分でトイレに行き、排泄しようとする。ダンスや運動遊びを通して、存分に身体を動かす心地よさを感じる。様々な遊びを展開したり、友だちとの遊びを楽しむ中で、人や物への理解力を高め、予想や意図を持ち行動する。自分の経験したことや身の回りで起こったことを話し、どんどんとイメージを膨らませながら話を進める。ひな祭りに参加し、季節の行事やおひな様に興味をもつ。花のつぼみを見つけたり暖かい気候を感じたりし、自然に興味をもつ。玩具を使いながら遊ぶごっこ遊びを通して、なりきったりイメージを持ったり遊ぶことを楽しむ。